

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3141667号
(U3141667)

(45) 発行日 平成20年5月22日(2008.5.22)

(24) 登録日 平成20年4月23日(2008.4.23)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 G 9/10 (2006.01) A 4 7 G 9/10 V

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2008-1391 (U2008-1391)
(22) 出願日 平成20年2月12日(2008.2.12)(73) 実用新案権者 508072796
中村 正典
滋賀県草津市草津1丁目1番16号
(72) 考案者 中村 正典
滋賀県草津市草津1丁目1番16号

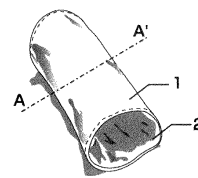
(54) 【考案の名称】 乳幼児用枕

(57) 【要約】 (修正有)

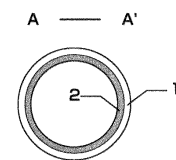
【課題】抱いた状態で眠った乳幼児を寢床に寝かし付けるとき、乳幼児の頭部及び頸部から腕を抜く際の衝撃で乳幼児が起きてしまう問題点があった。また、首の据わらない乳幼児を寢床から抱き上げる際、乳幼児の首の後ろに手を入れる動作がスムーズに行えないという問題点もあった。

【解決手段】乳幼児を抱いて眠らせるとき、予め本枕を腕に装着し、眠った後乳幼児の頭部及び頸部から腕を抜く際、本枕の内側に貼り付けてある滑る素材の繊維の効果で腕が抜き易く、乳幼児が感じる腕を抜くときの衝撃が軽減され、乳幼児を再び起こす事無く寝かし付けられる。また、乳幼児を寢床等から抱き上げる際にも、本枕に腕を挿入すると、首の後ろに手を入れる動作が上記の効果でスムーズに行える。

【選択図】 図 1



(断面図)



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

筒状の綿製布地の内側に滑る素材の繊維を貼り付けた乳幼児用枕。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、乳幼児を寝床等に寝かせたり、それらから抱き上げたりする動作をスムーズにするため筒状の綿製布地の内側に滑る素材の繊維を貼り付けた乳幼児用枕に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、子供を寝かし付けた後、起こさずに腕を抜くことができるものとして、布に緩衝材を詰め、半円筒状の腕枕用パット（特許文献 1）や、低反発ウレタンフォームからなる溝のある敷布団に筒状の枕をその溝に差し込んで、その後腕を抜いて睡眠中の乳幼児の睡眠を維持させながら寝かせる乳幼児用寝具（特許文献 2）があった。

【特許文献 1】登録実用新案第 3073702 号

【特許文献 2】特開 2007 - 229412 号広報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

抱いた状態で眠った乳幼児を寝床に寝かし付けるとき、乳幼児の頭部及び頸部から腕を抜く際の衝撃で乳幼児が起きてしまう問題点があった。

【0004】

また、首の据わらない乳幼児を寝床等から抱き上げる際、乳幼児の首の後ろに手を入れる動作がスムーズに行えないという問題点もあった。

【0005】

従来技術から、半円筒状の腕枕用パット（特許文献 1）では、乳幼児を腕に抱いている際、その形状から枕が腕に定着せず、枕ごと乳幼児の頭部がずれ落ちる危険性があり、また、乳幼児の枕としては枕が高すぎて、寝返りをする際枕から落ちてしまう危険性があった。

【0006】

乳幼児用寝具（特許文献 2）では、寝具自体の厚みが大人の腕が差し込める程の高さがあり、乳幼児が寝返りをするとき、その高さから落ちてしまう危険性がある。

また、床に敷くタイプの寝具では使用できるが、柵のあるベビーベッドタイプでは使用できない設計になっていた。

【課題を解決するための手段】

【0007】

そして、本考案は上記の課題を解決するために予め本枕を図 3 の様に腕に装着しておき、乳幼児の頭部及び頸部を腕に乗せた状態（図 4）で眠らせる。乳幼児を寝床に下ろし図 5 の様に本枕から腕を抜く。このとき本枕の内側に貼り付けてある、滑る素材の繊維（図 1 - 2）の効果で腕が抜き易く、また、乳幼児が感じる腕を抜くときの衝撃が軽減され、乳幼児を再び起こす事無く寝かし付けられるものである。

【0008】

腕を抜いた後も乳幼児に適した枕としてそのまま利用できる（図 2）。

【0009】

乳幼児を寝床等から抱き上げる際にも、本枕に腕を挿入すると、首の後ろに手を入れる動作（図 5）が本枕の内側に貼り付けてある、滑る素材の繊維（図 1 - 2）の効果でスムーズに行える。

【0010】

また、乳幼児を腕に抱き寝かせているとき、本枕は筒状の綿製の柔らかい布地からなるもので、腕に定着し乳幼児が腕からずれ落ちることがない。

10

20

30

40

50

【0011】

本枕は、腕を挿入し装着するだけの簡単な構造の為、あらゆる寝具においても使用できる。

【考案の効果】

【0012】

上述したように本考案の乳幼児用枕は、乳幼児を腕に抱いている状態においても頭部が腕からずれ落ちることはない。

【0013】

また、乳幼児が寝返りをしても事故に繋がらない枕の高さに設計されている。

【0014】

そして、本枕は布団やベッド等あらゆる寝具においても使用でき、また、使用する素材は繰り返し洗濯が可能で清潔である。よって、育児中の方が安心且つ安全に使用できるものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、本考案の実施の形態を図1～図2に基づいて説明する。

【0016】

図1-1は肌に触れる表面なので乳幼児に適した綿製の布地を使用する。図1-2は腕を挿入する裏面なので、腕を抜き差しする動作をスムーズに行える滑る素材の繊維（例えば、ポリエステル等）を使用する。

【0017】

上記2種の素材を重ねて貼り付けたもの（例えば、糸で縫い付ける）を、図1の様に綿製の布地を外側に、滑る素材の繊維を内側にして筒状に縫製する。

【0018】

図2は図1を自然な状態で床に置いたものである。図2に見るように本枕は柔らかい素材を使用するので、枕の高さも低く、乳幼児に適している枕になる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】 本考案の実施形態を示す乳幼児用枕の立体図及び断面図

【図2】 同乳幼児用枕を自然な状態で床に置いた立体図

【図3】 同乳幼児用枕を腕に装着した様子の説明図

【図4】 同乳幼児用枕を装着し、乳幼児を抱いている様子の説明図

【図5】 同乳幼児用枕から腕を抜き差しする様子の説明図

【符号の説明】

【0020】

1 綿製の布地

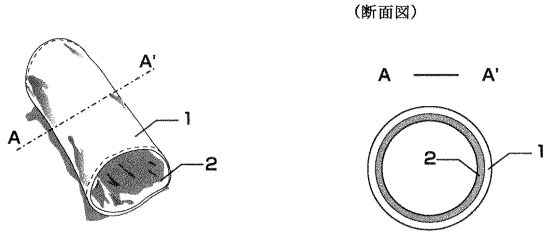
2 滑る素材の繊維

10

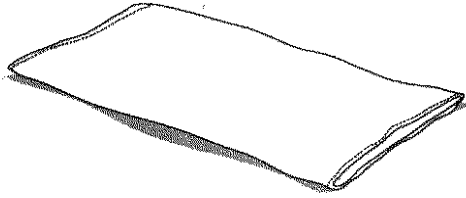
20

30

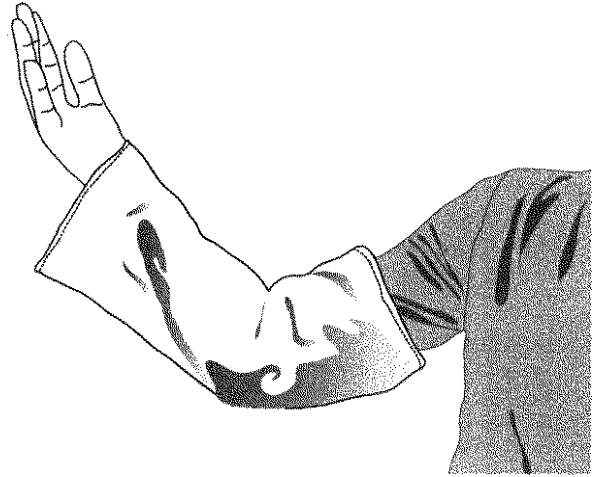
【 図 1 】



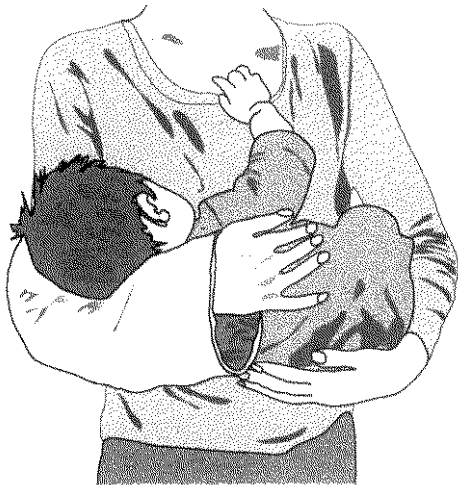
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】

